

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立小山小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別配当漢字表に示されている当該学年の漢字を書いたり読んだりすることに課題が見られる。(まとめテスト2回の正答率は1回目60%、2回目85%) ・自分の経験に結び付けながら短い文章を考えを書くことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト返却時の見直し、練習を確実にやる。普段の文章から習った漢字はしっかり使うよう指導していく。また、家庭学習の進め方についても、良い例を取り上げながら、繰り返し学習ができるようにする。音読を多く取り入れ、読みの定着を図る。(1回目のテストから80%を目標とする) ・文型を示し、基本的なよい感想の書き方や意見文の書き方を身に付ける時間を確保する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・小数のかけ算、わり算の単元において、既修事項を用いて課題を解決することに課題が見られる。(単元テストの正答率78%、6割以下5人、6～7割4人) ・既習事項を生かして自分の考えを表現することに課題が見られる。(単元テストの正答率66%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度のつまづきの原因になっている部分を把握し、家庭学習などで使えるプリント課題などに取り組み、授業時には5年の学習の習得に時間をかけられるようにする。整数のわり算の手順に課題があるので、2学期も繰り返し触れていく。(単元テストの正答率80%、下位児童を減らす。) ・全体交流の前に、小グループでの考えの交流の時間を取ることにより、表現の仕方を学ぶ。先に考えを書いた児童にスタンプを押すことにより、自信をもって自分の言葉で表現できる児童を増やす。(単元テストの正答率75%)
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活から課題を設定し、予想を立てることに課題が見られる。(正答率82.4%、記述問題の不正解児童が多い。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察の交流で、論理的に表現できている物を紹介し、「事実(根拠)→導かれる考え」という形で詳しく記述できるように指導を行う。テスト返却時には、使わなければいけなかったキーワードや、理由を示す「から」などの言葉の使い方など、具体的な表現技術を伝える。(正答率90%、記述問題の正答率を上げる。)
特別の教科道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交流の時間に活発に話し合いが行われているように見られるが、数名の児童が話をしている、話す側と聞く側に分かれてしまう等、立場が固定されてしまっていることもある。 ・「こうした方がよいと思う。」という模範的な感想を書く児童が多く、自分のことに置き換えて振り返ることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の際には、全員が順番に話せるような話型を示し、児童に発言する経験を積ませる。それにより、交流時の立場が固定されないように配慮する。 ・自分のことに置き換えて振り返っている児童を紹介し、自分にもそういう経験があったと、一緒に振り返ることができるようにする。